

東京・大阪・鹿児島で海外教育旅行セミナー 2020年教育改革後は注目向上

JOTCでは2019年8月に鹿児島市(19日)、大阪市(20日)、東京・大手町(22日)の3カ所で、海外教育旅行セミナーを開催しました。これは中学校・高等学校の教職員を対象に実施され、3会場共に学校関係者のほか旅行会社関係者ら約30名が参加しました。

セミナーの内容は三会場同様で、第1部では文部科学省総合教育政策局教育改革・国際化専門職の加藤賢二氏が「グ



大阪会場の様子

ローバル人材育成に向けてトビタテ！留学JAPANを通して」と題して講演。加藤氏はSociety5.0、SDGs、企業の通年採用といった今後の社会情勢の変化に言及しながら、将来の大学進学及び就職活動などには海外体験の有無が重要となると説明。ハワイでの教育旅行を例に挙げながら、学生が自ら気づきを得る「探求型」海外教育旅行を提案しました。

第2部では聖心女子大学教授の益川弘和氏が登壇し、「教育改革から考える海外教育の効果的活用とは？」と題して講演。益川氏は2020年から始まる教育改革にふれ、「今後の国際社会では、海外教育旅行は多様な価値観理解を学ぶきっかけとして重要な意味を持つ」と説明しました。また当日は各地域の観光局によるPRのほか、ブースでの資料配布なども行われました。

JOTC・航空会社インタビュー 第10回

東京・大阪・福岡からマカオへ週32便 世界屈指のIRシティへの送客を

統合型リゾート(IR)の先進的・地域・マカオへ直行便を運航するマカオ航空(NX)。治安も良好で、日本からのNX利用者は約4割を女性が占める注目のリゾート地となっています。2019年12月には関空便を増便するNXの、今後の方策について話を聞きました。



マカオ航空東京支店
旅客営業部長 扇谷 毅氏

——マカオ航空の最新情報を教えてください。

扇谷 2019年7月から成田／マカオ便を増便し、週14便のダブルデイリーとなり、12月18日からは関空発も同様に週14便を運航します。現在運航している福岡発週4便を加え、12月からは計32便が日本／マカオを結びます。座席数の増加により、グループ向けの座席も供給しやすくなりました。

——マカオはIRの先進地として注目を浴びています。

利用客層に変化はありましたか。

扇谷 女性層の割合が増えてきています。マカオ空港からIRのホテルへはタクシーで5～10分ほどと、非常に行きやすく便利でストレスもありません。IRはカジノばかりでなく、上質のリゾートホテルやイベント、ショー、グルメなど多様な魅力があり、女性層に加えファミリー層にも訴求できるでしょう。また当社の路線は圧倒的にレジャー中心ですが、日本でもIR実施法案が成立したことから、今後は業務渡航や視察なども増えると考えてい

ます。

——このほかの強みはなんでしょう。

扇谷 ハブとしてのマカオの利便性にもご注目ください。マカオ経由のハノイやダナン、バンコク路線は近年人気です。また中国24都市にも就航しており、帰りにマカオに滞在するビジネス+レジャーの需要も増えてきました。

——旅行会社にメッセージをお願いします。

扇谷 当社では今後しばらくは増便した定期路線の販売に注力し、将来的には福岡便のデイリー化も目指したい考えです。これまで以上に旅行会社の皆様のお力が必要です。ご要望などがあれば、ぜひ各支店にご連絡ください。

問い合わせ TEL:06-6263-5383

※インタビューの全文はJOTCのホームページ
(<http://www.jata-net.or.jp/outbound/>)でお読みいただけます